



①すずらん工房は笑顔いっぱい。工房前で利用者、職員、ボランティアみんなでニコッとハイチーズ!! ②多くの皆さんに支えられて開所を迎えたすずらん工房。待ちに待った作業所です ③デイケア(社会復帰教室)で野田村へ出掛けた町外研修での一枚



笑顔の集う もうひとつの我が家



「すずらん工房」

今月号では、町内の障がい者作業所「すずらん工房」の歩みと、障がいを持ちながら社会復帰を目指して働く工房の利用者の皆さんと、彼らを支えるボランティアの皆さんを紹介します。

すずらん工房の歩み

いつ	内容
平成元年11月	精神障がい者家族会「しらかば会」設立
平成6年10月	岩手保健所がデイケア「すずらん会」を月2回実施
平成8年	町主催の「すずらん教室」スタート(月2回ボランティア3名)
平成13年	県主催の精神保健ボランティア養成講座
平成13年10月	町精神保健ボランティア団体「はんぶんこの会」設立
平成14年4月1日	家族会を実施主体として障がい者作業所「すずらん工房」開所
平成16年	県主催の精神保健ボランティア養成講座
平成18年4月1日	障害者自立支援法施行
平成19年4月1日	町社会福祉協議会を実施主体として、地域活動支援センター障がい者作業所「すずらん工房」スタート

多くの人に支えられ 設立した「すずらん工房」

今から十五年前の平成六年、当時の岩手保健所は障がいのある人たちの社会復帰を目指して、創作活動や料理づくりなどを行うデイケア(社会復帰教室)「すずらん会」を町総合センターで実施していました。

月二回の活動をしている中、会の運営に携わっていた保健センターの下屋敷昌子保健婦長(故人、当時の職名は「保健婦や病院の先生が関わる教室も大事ですが、本当の意味での社会復帰は、多くの町民の皆さんと関わることです。皆さん、力を貸してください」と呼び掛けました。その熱意に心打たれてボランティアとして参加したのが、すずらん工房の開所から現在までずっと工房に関わりを続ける向川原幸恵さん、遠藤玲子さん、藤岡禮子さんでした。

平成八年になると、すずらん会の活動に加え、町内独自の「すずらん教室」を町保健センターで月二回開催することになりました。

平成十三年には、保健所主催の精神保健ボランティア養成講座が開催され、向川原さんをはじめ、多くの町民が参加しました。当時の養成講座を振り返って明石芳子さんは、「何をしていいか全く分からないまま受講して今になるんですよ」とはにかみます。

そして十三年十月、高宮時男さん(故人)をリーダーに町内の精神障がいの人たちを支える「はんぶんこの会」の設立にこぎ着け、岩手県精神保健ボランティア連絡会にも登録しました。多くの精神保健ボランティアが町内に誕生し、精神に障がいを持った人たちを支える土壌が整いつつありました。そのような中、星野出身で滝沢村にある障がい者地域活動支援センター初代所長であった上川原幸男さんは、支援や相談活動のためたびたび町を訪れ「葛巻町にも障がい者作業所を！」と呼び掛けました。ついに平成十四年四月一日、待望の障がい者作業所「すずらん工房」は家族会「しらかば会」が設置主体となって設立されたのでした。